

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 10-288379

(43)Date of publication of application : 27.10.1998

(51)Int.Cl.

F24F 11/02

G05B 23/02

(21)Application number : 09-092360

(71)Applicant : HITACHI LTD

(22)Date of filing : 10.04.1997

(72)Inventor : IWASHINA YOSHINORI

TOGUSA KENJI

SASAKI TOSHIHARU

MAEDA KENSAKU

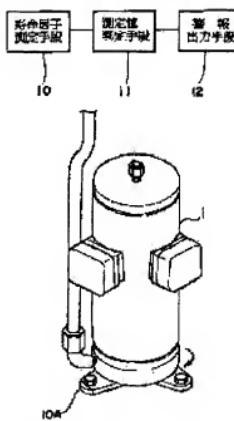
SATOU NOBUHIRO

(54) AIR-CONDITIONING EQUIPMENT WITH SERVICE-LIFE PREDICTION DEVICE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To grasp the timing for replacement of a compressor in advance and to improve the reliability in an air-conditioning equipment by incorporating the life prediction device of the compressor into the compressor for constituting a refrigeration cycle.

SOLUTION: In a life prediction device that is constituted of a life factor measurement means 10, a judging means 11, and an alarm-outputting means 12 for generating an abnormal display signal when deviating from a tolerance, a vibration acceleration pickup 10A is incorporated into the foot part of a compressor 1 as the life factor measurement means 10. The tolerance limit value of the vibration acceleration is set corresponding to the type of a refrigeration cycle and the operating frequency of the compressor 1, and the vibration acceleration of the foot part of the compressor 1 due to the vibration acceleration pickup 10A to be measured in the stable state of the cycle is compared with the tolerance limit value by the judging means 11. In this case, when the measurement value is equal to or higher than the tolerance limit value and the continuation time of the measurement value is equal to or more than 10 minutes, the alarm-outputting means 12 generates a failure display signal. On the other hand, when the measurement value is less than 10 minutes, it is judged that the compressor 1 is operating improperly only temporarily.



(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-288379

(43)公開日 平成10年(1998)10月27日

(51)Int.Cl.*
 F 24 F 11/02
 G 05 B 23/02

識別記号

F I
 F 24 F 11/02
 G 05 B 23/02

Z
R

審査請求 未請求 請求項の数4 O.L (全5頁)

(21)出願番号 特願平9-92360

(71)出願人 000005108

(22)出願日 平成9年(1997)4月10日

株式会社日立製作所
東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地(72)発明者 若島 吉郎
静岡県清水市村松390番地 日立水工エンジニアリング株式会社内(72)発明者 7又立 錠治
静岡県清水市村松390番地 株式会社日立製作所空調システム事業部内(72)発明者 佐々木 俊治
静岡県清水市村松390番地 株式会社日立製作所空調システム事業部内
(74)代理人 弁護士 瀬谷 康之

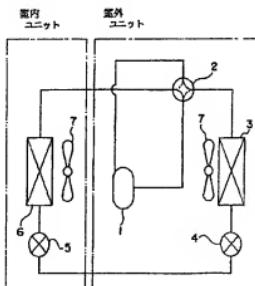
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 寿命予測装置付空気調和機

(57)【要約】

【課題】 空気調和機に圧縮機の寿命予測装置を組み込むことにより、圧縮機の交換時期を容易に把握し、空気調和機の信頼性を向上させる。

【解決手段】 寿命予測装置付空気調和機は、冷凍サイクルを形成する圧縮機、室外熱交換器、膨張弁、室内熱交換器等を備えており、そして冷凍サイクルの種類を識別するサイクル識別手段と、圧縮機の回転数を制御する電力周波数を検出する周波数検出手段と、圧縮機定速部に取り付けた振動検出手段と、振動検出手段の測定値を、冷凍サイクルの種類、圧縮機の回転数に対応して予め定めた許容値と比較する判定手段と、判定手段で測定値が許容値を超過して超える時間が所定時間(例えば10分)を超えた時に異常表示信号を発する警報手段とからなる寿命予測装置を有する。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 冷凍サイクルを形成する圧縮機、蓄電器、膨張機及び熱交換器を備え、前記圧縮機に寿命予測装置を組み込んだことを特徴とする寿命予測装置付空気調和機。

【請求項 2】 冷凍サイクルを形成する圧縮機、蓄電器、膨張機及び熱交換器を備え、冷凍サイクルの種類を識別するサイクル識別手段と、前記圧縮機の回転数を測定する電力測定手段と、前記測定手段の測定値を用以て圧縮機の足部に取り付けた電動機出手手段と、該電動機出手手段の測定値を用以て圧縮機の回転数を測定する電力測定手段と、前記測定手段の測定値と前記測定手段の測定値と比較してあらかじめ定めた許容値と比較する判定手段と、該判定手段で前記測定値が前記許容値を超過したときに所定時間を超えた時に異常表示信号を発する警報手段とからなる寿命予測装置を有することを特徴とする寿命予測装置付空気調和機。

【請求項 3】 冷凍サイクルを形成する圧縮機、蓄電器、膨張機及び熱交換器を備え、冷凍サイクルの種類を識別するサイクル識別手段と、前記圧縮機の回転数を測定する電力測定手段と、前記測定手段の測定値を用以て圧縮機の足部に取り付けた電動機出手手段と、前記測定手段の測定値と前記測定手段の測定値と比較してあらかじめ定めた許容値と比較する判定手段と、該判定手段で前記測定値が前記許容値を超過したときに所定時間を超えた時に異常表示信号を発する警報手段とからなる寿命予測装置を有することを特徴とする寿命予測装置付空気調和機。

【請求項 4】 冷凍サイクルを形成する圧縮機、蓄電器、膨張機及び熱交換器を備え、冷凍サイクルの種類を識別するサイクル識別手段と、前記圧縮機の回転数を測定する電力測定手段と、前記測定手段の測定値と前記測定手段のモータの入力電流を測定する電流測定手段と、電流測定手段の測定値と、冷凍サイクルの回転数に対応してあらかじめ定めた許容値と比較する判定手段と、該判定手段で前記測定値が前記許容値を超過したときに所定時間を超えた時に異常表示信号を発する警報手段とからなる寿命予測装置を有することを特徴とする寿命予測装置付空気調和機。

【発明の詳細な説明】

【(0001)】 『発明の実する技術分野』 本発明は、寿命予測装置を組み込んだ空気調和機に関するものである。

【(0002)】 『従来の技術』 従来の技術は、特公olis-300939号公報に記載されているおり、空気調和機に蓄電池が記載される書き換え可能なエンリッシュの記録装置を組み込み、運転中の状況を明らかにして、これを空気調和機の故障の防止に役立てるとともに、万一故障してもその原因究明が速やかに行える者の技術がなされているが、空気調和機の寿命を予測する手段については省略されて

いなかった。

【(0003)】 『発明が解決しようとする課題』 本発明が解決しようとする課題は、空気調和機に、その冷凍サイクルを構成する主要部品である圧縮機の寿命予測装置を組み込み、その寿命を予測することにより事前に交換時期を把握し、空気調和機の信頼性向上を図ることである。

【(0004)】 『課題を解決するための手段』 上記課題を解決するために、本発明の第1の寿命予測装置付空気調和機は、冷凍サイクルを形成する圧縮機、蓄電器、膨張機及び熱交換器を備え、そして冷凍サイクルの種類を識別するサイクル識別手段と、圧縮機の回転数を測定する電力測定手段と、圧縮機の足部に取り付けた電動機出手手段と、電動機出手手段の測定値を、冷凍サイクルの種類及び圧縮機の回転数に対応してあらかじめ定めた許容値と比較する判定手段と、判定手段で測定値が許容値を超過して超えたときに所定時間を超えた時に異常表示信号を発する警報手段とからなる寿命予測装置を有することを特徴とする寿命予測装置付空気調和機。

【(0005)】 また、本発明の第2の寿命予測装置付空気調和機は、第1の寿命予測装置付空気調和機における電動機出手手段の代わりに、圧縮機の近辺に蓄電池出手手段を設し、圧縮機の聲音から圧縮機の寿命を予測するものである。

【(0006)】 さらに、本発明の第3の寿命予測装置付空気調和機は、第1の寿命予測装置付空気調和機における電動機出手手段の代わりに、圧縮機のモータの入力電流を測定する電流測定手段を設置して、この入力電流から圧縮機の寿命を予測するものである。

【(0007)】 このように寿命を予測することにより、圧縮機の交換時期を把握することができ、空気調和機の信頼性を向上させることができ。

【(0008)】 『発明の実施の形態』 本発明の一実施の形態を図1~図4を用いて説明する。図1に寿命予測装置を設ける空気調和機の冷凍サイクルを示す。この空気調和機は、圧縮機1、四方井2、室外熱交換器3及び室内膨張器4を有する室外ユニットと、室内膨張器5及び室内熱交換器6を有する室内ユニットとから構成されている。冷凍サイクルを構成する圧縮機1ないし室外熱交換器3及び室内熱交換器6は、それわれ送風装置7を備えている。

【(0009)】 冷凍サイクル時には、冷媒は、圧縮機1で高圧高濃度に圧縮され、四方井2を通じて室外熱交換器3に送られ、ここで室外空気に対応して吸収され、そして凝縮された冷媒液は、室外膨張器4で膨張し、室内熱交換器6で室内空気から吸熱して蒸発し、四方井2を通りて圧縮機1に戻る。室内熱交換器6で吸熱して冷却した空気は、送風装置7により室内に送られ、冷房に供せら

れる、一方、暖房サイクル時には、冷媒は冷房サイクル時とは正方向に流れ、室内熱交換器で放熱されて温められた空気は屋外に供せられる。室外熱交換器3は、冷房サイクル時に暖房器として、暖房サイクル時には蒸発器として機能し、一方、室内熱交換器6は冷房サイクル時に蒸発器として、暖房サイクル時には暖房器として機能する。

【0010】この空気調和機に備えられた寿命予測装置は、図2に示すように、寿命予測に用いる因子の変動なし変化を測定する寿命因子測定手段10と、寿命因子の測定手段10からじめ定めた寿命因子の許容限界値とを比較し、測定値が許容範囲にあるか否かを判定する判定手段11と、許容範囲を逸脱した時に異常表示信号を発する警報出力手段12とから構成されている。寿命因子は、圧縮機の摂動または総合、あるいは圧縮機の尚余電力を測定する手段13と2は圧縮機またはその部品の交換時期を報知する。

【0011】図4により、圧縮機の摂動を基に圧縮機の寿命を予測する方法について説明する。尚余予測のために、図4に示すように圧縮機の尚余因子測定手段として測定初期速度ピックアップ1Aを組み込んでおく。

【0012】《ステップ400》空気調和機の運転を開始する。

《ステップ401》冷凍サイクルの種類及び圧縮機の運転回数等に対応して、摂動加速度許容限界値を予測する。

《ステップ402》サイクルが安定した状態で、摂動加速度ピックアップ10Aにより、圧縮機定常の摂動加速度を測定する。安定したサイクル状態は圧縮機の運転回数等が一定になる。あるいは運転回数等の変化が微小にならうことなどにより判断する。

《ステップ403》判定手段11により摂動加速度の測定値とその許容限界値とを比較する。

《ステップ404》測定値が許容限界値に達しない低い時は、現状維持してステップ402に戻る。この時、圧縮機は良好に運転されていると判断する。

《ステップ405》測定値が許容限界値以上に高くなつた時、その高い測定値が10分以上続くか観察する。もし10分未満であるなら、ステップ402に戻る。10分未満の場合は、圧縮機の高い摂動が一時的な現象であると判断する。

《ステップ406》もし高い測定値が10分以上続くなれば、警報手段12から異常信号を発生する。

【0013】圧縮機の摂動加速度の許容限界値は、冷凍サイクルの種類（冷房サイクル、暖房サイクル、絶露サイクル）及び圧縮機の運転回数等の使用条件により異なる値をとり、各使用条件に対する許容限界値は、强度計算ないし実験によりあらかじめ求めておく。

【0014】また、寿命予測装置は空気調和機のサービ

スメンテナンス会社と電話回線等で接続しておき、異常表示信号を伝送する。このように圧縮機の摂動が速度を挙出し、摂動加速度から圧縮機の寿命およびその交換時期を把握することにより、圧縮機の故障を未然に防ぐことができ、かくして空気調和機の信頼性向上を図ることができる。

【0015】上記のように圧縮機の摂動を基に寿命を予測する代わりに、圧縮機の尚余を基に圧縮機の寿命を予測することができる。この場合、圧縮機の周辺に暖合計を設置する。この寿命予測装置は、図2に示すのと同じように構成され、寿命因子測定手段10としての暖合計と、暖合の測定値とあらかじめ定めた基準の許容限界値とを比較し、測定値が許容範囲にあるか否かを判定する判定手段11と、許容範囲を逸脱した時に異常表示信号を発する警報出力手段12とから構成される。尚余予測する手段は、圧縮機の摂動加速度を藉りて示される他は、図4に示すステップ401～406と同じである。また、圧縮機の尚余レベルの許容限界値は、冷凍サイクルの種類及び圧縮機の運転回数等の使用条件により異なる値をとり、各使用条件に対する許容限界値は、実験によりあらかじめ求めておく。

【0016】また、圧縮機の摂動を基に寿命を予測する代わりに、圧縮機の尚余電流値を基に圧縮機の寿命を予測することができる。この場合、圧縮機のモータの入力電流を測定する電流計を設置する。この寿命予測装置は、図2に示すのと同じように構成され、寿命因子測定手段としての電流計と、入力電流の測定値とあらかじめ定めた入力電流の許容限界値とを比較し、測定値が許容範囲にあるか否かを判定する判定手段11と、許容範囲を逸脱した時に異常表示信号を発する警報出力手段12とから構成される。尚余予測する手段は、圧縮機の摂動加速度を入力電流で示せる物は、図4に示すステップ401～406と同じである。また、圧縮機の入力電流の許容限界値は、冷凍サイクルの種類及び圧縮機の運転回数等の使用条件により異なる値をとり、各使用条件に対する許容限界値は、設計上の値を採用するか、または実験によりあらかじめ求めておく。

【0017】これらの方法によって出力された警報信号は、部品の交換時期の表示、一部部品の停止、ユニット全体の停止等に利用でき、冷凍サイクル部品の故障を防止する効果がある。

【0018】
【発明の効果】本発明によれば、圧縮機に寿命予測装置を組み込むことにより、圧縮機の故障を事前に防ぐことができ、またその交換時期を把握できるので、空気調和機の信頼性向上を図ることができる。
【図面の簡単な説明】
【図1】空気調和機の冷房サイクル系統図である。
【図2】圧縮機の寿命予測装置の構成を示すブロック図である。

【図 3】圧縮機に寿命予測のために運動測定用ピックアップを取り付けた図である。

【図 4】圧縮機の運動から圧縮機の寿命を予測する方法を示すフローチャートである。

【参考の説明】

1 圧縮機

2 四方弁

3 室外熱交換器

4 室外側張糸

5 室内側張糸

6 室内熱交換器

7 送風機

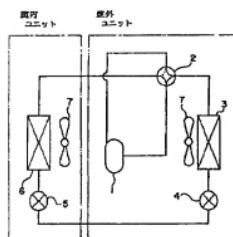
10 寿命因子測定手段

10A 電動ピックアップ

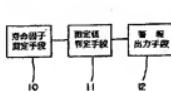
11 測定値判定手段

12 計算出力手段

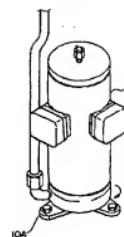
【図 1】



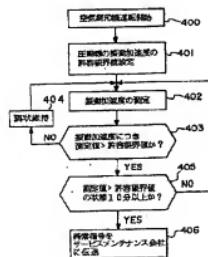
【図 2】



【図 3】



【図 4】



フロントページの続き

(72)発明者 斎田 豊作
静岡県清水市村松390番地 日立清水エン
ジニアリング株式会社内

(72)発明者 佐藤 輝裕
静岡県清水市村松390番地 株式会社日立
製作所空調システム事業部内